

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成16年10月28日(2004.10.28)

【公表番号】特表2000-509425(P2000-509425A)

【公表日】平成12年7月25日(2000.7.25)

【出願番号】特願平9-540837

【国際特許分類第7版】

C 0 9 J 133/04

C 0 9 J 7/02

C 0 9 J 9/02

C 0 9 J 163/00

【F I】

C 0 9 J 133/04

Z

C 0 9 J 9/02

C 0 9 J 163/00

【手続補正書】

【提出日】平成15年11月10日(2003.11.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 繩 補 正 書

平成15年11月10日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

## 1. 事件の表示

平成9年特許願第540837号

## 2. 補正をする者

名称 ミネソタ マイニング アンド マニュファクチャリング  
カンパニー

### 3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目 5 番 1 号 虎ノ門 37 森ビル  
青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751)石田 敬

#### 4. 補正対象書類名

## 請求の範囲

### 5. 補正対象項目名

## 請求の範囲

## 6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおり補正します。

## 7. 添付書類の目録

## 請求の範囲

1 通



佐藤

### 請求の範囲

1. A) 熱硬化性の電気及び／又は熱伝導性の接着剤フィルムを第一の基材に適用すること、前記第一の基材は場合により電気伝導性であってよく、前記接着剤フィルムは、

a) i) アクリレートモノマー、場合により、前記アクリレートモノマーはフェノキシエチルアクリレート、イソボルニルアクリレート又はそれらの混合物である、

i i) アクリレート部分を有する架橋剤、場合により、前記架橋剤はウレタンジアクリレートオリゴマー及びエポキシジアクリレートオリゴマーからなる群より選ばれる、

の重合反応生成物を含むアクリレートポリマー、前記アクリレートポリマー及び成分 i) 及び i i) は実質的に溶媒を含まない、

b) ポリエポキシド樹脂、場合により、前記ポリエポキシド樹脂はノボラックポリエポキシド樹脂、ビスフェノールAのジグリシジルエーテル及びそれらの混合物からなる群より選ばれる、

c) 有効量の改質脂肪族アミンポリエポキシド樹脂硬化剤、前記アミン硬化剤は20°Cで前記接着剤フィルム中に不溶性であり、場合により、前記アミン硬化剤は熱活性化性であり、そして場合により、前記ポリエポキシド樹脂硬化剤はノボラックポリエポキシド樹脂とジ第一級脂肪族アミンとの反応生成物である、

d) i) 電気的相互接続を提供するために有効な量の導電性材料、場合により、前記導電性材料は接着剤組成物の1～80体積%の量で存在する、

i i) 電磁波干渉遮蔽を提供するために有効な量の導電性材料、又は、

i i i) 热伝達媒体を提供するために有効な量の熱伝導性材料、場合により、前記熱伝導性材料は接着剤組成物の5～80体積%の量で存在する、  
のうちの少なくとも1つ、及び、

e) 場合により、熱可塑性ポリマー又はコア・シェル耐衝撃性改良剤、を含む、

B) 前記接着剤フィルムを90～180°Cの温度に15秒～5分間加熱することにより、前記接着剤フィルム中の前記ポリエポキシド樹脂を硬化させること、

場合により、加熱の間に接着剤フィルムに圧力を加える、及び、

C) 場合により、硬化前に硬化性接着剤フィルム上に第二の基材を配置する  
と、

を含む、硬化した接着剤フィルムを提供する方法。

2. 請求項1記載の方法により製造される接着剤転写テープ。

3. 前記フィルムは電気伝導性であり、場合により、前記フィルムは電磁波遮  
蔽を提供する、請求項1記載の方法。

4. 前記フィルムは電気相互接続を提供する、請求項1記載の方法。